



レビー小体型認知症サポートネットワーク福岡 第4回研修会・交流会



2016年9月8日（木）BiVi天神で、協力医 合馬慎二先生の司会のもと、DLBSN福岡の第4回研修会・交流会を開催しました。

顧問医である坪井先生から、講義「レビー小体型認知症」に先立って、正しく理解することが不安を取り除く第一歩である、サポートをする人はよく理解して、まわりに広めていって欲しいとお話しされました。講義では、特に、レビー小体型認知症の症状についてわかりやすく説明されました。

次に、ご家族、ケア専門職を交えた4つのグループでフリーディスカッションを行いました。ディスカッションでは、1時間でも足りないほど様々な意見や疑問が挙がり、先生方からアドバイスが行われました。その一部をご紹介します。

グループディスカッション内容

- パーキンソン症状がひどくなってオムツ交換も難しくなってきた。→足の筋肉が衰えないように立つ練習をするとよい。
- パーキンソン症状に対し薬を飲み始めたが悪化している。医師に気をつけて何でも話せない。→セカンドオピニオンを利用してはどうか。医師との相性が良くないと、理解できないことが多く治療も進まない。
- 家での症状と施設での症状が異なる。施設に入ると歩行もしっかりしていて、びっくりしている。→生活背景や元々の性格が要因となっている可能性がある。
- レビー小体型認知症で若年性認知症の人はいるのでしょうか？→若年性は体力がある一方、精神症状が強くなるのが特徴である。30～40代で発症することもある。

- 病院で認知症の人が増えてきた。合併症の有無にもよるが、BPSD や食欲低下など対応が難しい。→体力をつけるリハビリや気分転換が必要である。今ある体力を維持して元気に過ごせる関わりが必要である。
- しっかり勉強して、理解して適切な対応をすることが大事だとわかった。交流会参加には、このような意義があると思う。
- ご家族やケア専門職がテーブルを囲んで話をする機会は少ない。この会に参加することで、よりよい介護ができるようになるとうい。

会場では、レビー小体型認知症に関する資料や介護に関する情報を手にすることができます。下村代表より「レビー小体型認知症患者さんのための症状日誌」が紹介され、これを活用して医師にしっかりと症状を伝えて欲しいと話され、会は終了しました。

報告者 DLBSN 福岡副代表 坂梨左織



次回の研修会・交流会は 2016 年 12 月 15 日（木）18 時～です。

